

# 津波に対する船舶対応表(大型船舶、中型船舶)

R3.7.1

分類	予想される津波の高さ		体制	津波来襲までの時間的余裕	船舶の対応		
	数値発表 (発表基準)	表現			港内着岸船舶	錨泊船舶	航行船舶
津波注意報	1m (20cm≦高さ≦1m)	標記しない	第1体制		荷役中止 港外退避 又は 係留避泊	港外退避 又は 港内避泊	
津波警報	津波警報 3m (1m<高さ≦3m)	高い	第2体制	有り	荷役中止 港外退避	港外退避	港外退避
	大津波警報 5m (3m<高さ≦5m) 10m (5m<高さ≦10m) 10m超 (10m<高さ)				無し	荷役中止 係留避泊 又は 陸上避難	
南海トラフ 臨時情報					気象庁から南海トラフ臨時情報が発令された場合は、別紙の対応を取る		
備考					事業者側で予め対応マニュアルを作成	錨地として使用されている海域のうち津波発生時に流速が速くなる可能性の高い海域を予め調査しておく	

## 津波来襲までの時間的余裕

- 有り : 津波警報が発せられた時点から避難に要する十分な時間(船舶を港外退避、陸揚げ固縛等の安全な状態に置くまで)が有ると船長が判断した場合
- 無し : 津波警報が発せられた時点から避難に要する十分な時間(船舶を港外退避、陸揚げ固縛等の安全な状態に置くまで)が無いと船長が判断した場合

陸上避難 : 船舶での退避は高い危険が予想されるので、乗組員等は陸上の高い場所に避難する。可能な限り船舶の流出防止、危険物の安全措施を取る。

港外避難 : 港外の水深が深く、十分広い海域、沖合いに避難する。

港内避泊 : 港内の安全な海域で錨、機関、スラスターにより津波に対抗する。

係留避泊 : 係留強化、機関の併用等により係留状態のまま津波に対抗する。(陸上作業員等の緊急避難場所として乗船させることを考慮する。)